

神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol. 12, No.1, 通巻60号 2008.6.15 発行

目次

会長・館長あいさつ……………1	私の応援メッセージ……………8
総会報告……………2・3・4	この一冊……………9
活動報告……………4・5	博物館NOW……………10
身近な自然シリーズ……………6・7	行事案内……………10・11・12

十二支、次の干支は

会長 佐藤昭男

友の会が発足して12年目、“友の会通信”も会員の皆様に支えられながら通巻60号を発行することができました。当初は博物館職員の手により、徐々に友の会の主動で発行することができるようになりましたが、今まで編集に携わってくださった多くの皆様、特に編集長の献身的な協力があったから“友の会を支える広報紙”ができたものと関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



今年度も“継続的な友の会の運営のあり方”を博物館との連携強化を図りながら検討を進めます。昨年度に博物館と協議を重ねた結果、“学習支援事業に位置づけた博物館事業”として、改めて友の会を支援していく考え方を示していただきました。具体的には“定期的な連絡会”を設置して、相互の事業の情報交換・調整などを密にし連携強化を図っていきます。そして、昨年度の“講座実施マニュアル”作成により、友の会行事の進め方をルーチン化することができましたので、運営事務、広報編集なども標準化することで、誰でもが友の会の運営に参画でき、運営に携わっている役員一人に負担が及ぶのではなく、役員会全体で対処できる仕組みを検討していきたいと考えています。また、昨年度から検討している“友の会特典の拡大”と「フィールドワークの達人」などの“図書出版事業”も会員の皆様に還元できるよう博物館の積極的な支援を受けながら進めますので皆様の応援をお願いします。

友の会の発足から、十二支で数えると子（ね）・丑（うし）と始まった干支も亥（い）で終わりです。来年は役員の改選期でもありますので、会員の皆様方に新たな十二支を示せるようにこの一年頑張りたいと思いますのでご協力をよろしくお願いします。

友の会とともに

館長 斎藤靖二

友の会の皆さんのおかげで、生命の星・博物館はこれまで広く活動を展開していただくことができました。これからも友の会の皆さんとともに、楽しい博物館をつくりていきたいと思っておりますので、一層ご協力下さいますようお願いいたします。



数年来、博物館や美術館には冷たい風が吹きつけていて、冬の時代にあるといわれています。教育や学術研究をはじめ、豊かな心を育むあらゆる文化的なことが、商業主義の影響を受けています。というより、今ではその支配下におかれています。子どもたちも学生も、研究成果といったものまで、あらゆるものが商品として取り扱われているといつてよいでしょう。たとえば今度の法人法改正のガイドラインでは、普及教育に大事な出版活動でも、公益性の事業ではなく商売とみなされています。学校教育と同じように、未来への投資である博物館の活動も、そのように評価される傾向にあって、楽しむ余裕のないような活動しにくい時代となっています。

今度の博物館法の改正では、新たに「運営の状況に関する評価等」と「運営の状況に関する情報の提供」が追加されています。自己点検に加えて外部評価に対応し、その内容の公表といったことに時間がとられることになりそうです。最近では、よい仕事をするよりも、予算削減することの方が社会貢献だとみなされ、評価されているようです。

どのような状況でも、博物館は自然から集めた資料を記録し、自然の面白さを将来に伝えていきたいと願っています。そのためには、展示や講座および野外観察会とともに、普及教育に関わる出版活動も大事だと考えています。お互いに協力しあって、ぜひ楽しい読み物をつくりたいと思っています。

友の会総会

友の会総会開催される

4月6日曜日、博物館講義室において、神奈川県立生命の星・地球博物館友の会第12回総会が午前10時～11時に開かれました。

出席者数49名、委任状数204通で総会成立が確認され、スタートしました（司会は友の会臼井幹事）。友の会会長佐藤さんの挨拶、博物館代表として富田企画情報部長の挨拶と続き議長を選出（土屋幹事）して、議事に入りました。

議事は平成19年度事業報告（幹事矢野）、平成19年度決算報告（廣井会計）・監査報告（会計監査員長山）、役員・組織体制の紹介（佐藤会長）、平成20年度事業計画案（矢野）、平成20年度予算（廣井）です。

役員について今年度は改選の年度ではありませんが、入れ替わりがありました。広報担当の中村恭子副会長、原宏幹事が退任され、鈴木智明幹事が副会長に就きました。中村さん、原さん、おつかれさまでした。

総会終了後は、お楽しみの親睦イベントです。この報告は、それぞれをご覧ください。

（企画部 関口康弘）



博物館西側講義室でなごやかに開かれました

友の会総会親睦イベント

入生田じっくり観察班「きのこのコース」

2008年4月6日（日）

PM／5名／講師：出川洋介学芸員

春の陽気に誘われて、幹事の性格から、その道中は多分賑やかな事と（お花見コースだぞ）と期待して参加しました。日ごろはあまり下を向かず、上？を向いて歩くので、「じっくりコース」は目から鱗という驚きでした。このコース初体験の私には学芸員の菌類専門用語が飛び交う中お花見気分はどこかへ。

じっくり解説された菌類、蘚苔類は、チャワンタケの仲間、タケ類天狗巣病菌、タケのさび病菌、クロコブタケ、サルノコシカケの仲間、エビウラタケ、ジンガサゴケ、レプラゴケ、キゴケ、イシノウエノヒダゴケ、フクロシトネタケ、ウチワタケ、カワラタケ、チャカイガラタケ、タケの赤衣病菌、アミガサタケ、キツネノワニタケ、ウメノキゴケ、コフキサルノコシカケ、ロウソクゴケ、他。

なお、アミガサタケはヨーロッパでも食材として珍重されると解説があり、持ち帰り食感を記載するようにとの指示、早速6日夜にスープにして食しました。香りはおいしそう…。味は…？ ご想像にお任せします。私が食した後1時間ほどして安全を確認したカミサンが味わった感想は『香りを食べるものかな…』でした。（川崎英憲）



這いつくばって観察するイベント参加会員

石垣山・一夜城コース

2008年4月6日(日) PM/25名/講師：勝山輝男学芸員・石浜佐栄子学芸員

毎年、多くの参加者(25名)が集まる一夜城コース、総会終了後、弁当を持参で出発。勝山学芸員の植物解説と石浜学芸員の地質解説を楽修しながら太閤橋を渡って工事中の山道を登り石垣山・一夜城へ。途中、天候に恵まれたお陰で箱根山から丹沢山塊を一望に収めることができました。

山道では可愛いヒナスマレやオオシマザクラ、ヤマザクラ、マメザクラ、エドヒガンなど沢山の桜など、板状節理の岩を使った段々畑や江戸時代の城石垣を砕石した場所などを観察しました。



ヒナスマレ

一夜城では太閤秀吉と徳川家康の"関東の連れ小便"で有名な場所で記念撮影。短い時間でしたが懇親会で美味しくビールがいただけた有意義な親睦会になりました。(佐藤昭男)



一夜城で記念撮影

入生田荻窪用水ハイキングコース

2008年4月6日(日) PM/10名/講師：笠間友博学芸員

春の晴天。まさしくハイキング日和のぽかぽか陽気のなか笠間学芸員とともに総勢10名で博物館をいざ出発。入生田駅へ続く歩道橋の上で、本日の行程と早川の右岸と左岸の地形の違いや箱根火山の概要を解説され、一挙に笠間ワールドへ引き込まれていきました。

山神社では、溶結凝灰岩の観察を行いました。特にこの地で産出した(と推測される)溶結凝灰岩で出来た神社の祠は、火山灰の中でレンズ状につぶれた黒い軽石が観察できとても印象的でした。我々の想像をはるかに超えている火砕流の痕跡を堪能しながら、長興山枝垂桜へ。今年は、満開のしだれ桜が迎えてくれました。しばし、お花見を楽しみ、ここで記念写真。

その後、吾性沢沿いに足を進めていきました。所々に顔を見せる火山岩を観察し、その成り立ちを想像しながら、荻窪用水まで到着。ここでは、友の会の関口さんより荻窪用水の歴史について解説をいただきました。

風祭あたりから右へ大きくカーブする早川は、かつてはまっすぐ抜けていた?との笠間学芸員の仮説にロマンを感じながら、無事風祭駅へ到着しました。

(廣井隆史)



板状節理を解説する笠間学芸員と
レクチャーを聞く参加会員

バックヤード探検隊

2008年4月6日(日)

- ・13:00～／参加者7名／講師名:大島光春学芸員
- ・14:00～／参加者11名／講師名:新井一政学芸員

普段は見ることの無い博物館の裏側を見学しました。展示資料の標本製作室・分析室・標本を作成する各施設・収蔵庫を、わかりやすく説明していただきました。

2組目は若い会員が4名参加していましたが、飽きることなく各施設に興味を持って見聞きしていました。未来の科学者に期待します。

アジアノロバ・オウムガイ・神奈川のトキの標本等貴重なものが大量に収蔵されていました。これらの標本が、新しい知見を生む(新発見に比較に必須)ことを新たに学びました。

腰を据えてゆっくり見たら大変楽しそうでした。また参加したいです。(臼井英夫)



大収蔵庫の2階から資料を見渡す参加者



博物館の裏側の見学に子どもたちも真剣

活動報告

▶春の雑木林を歩く

2008年4月5日(土)／金沢文庫駅～六国峠ハイキングコース～金沢自然公園／大人24名／講師名:勝山輝男学芸員

快晴で、絶好の観察日和にめぐまれ、金沢文庫駅を出発しました。民家の途切れたあたりから、階段をのぼり六国峠ハイキングコースへ、左右の土手は砂岩が露出し、マルバウツギの柔らかな新緑が美しい。ツルマサキが何本もあり、テイカカズラと一緒に生えていると間違えやすいとのこと。林縁にはウラシマソウが高さ10～15cmほどのものにまで、仏炎苞がついていて驚きでした。付属体の長い糸状のものは、何の役目をするのでしょうか。タブノキとマテバシイは良く似ているので識別しにくかったのですが、赤味を帯びるタブノキの冬芽と、小さな数個の冬芽をつけ、1年目の果実が見え隠れするマテバシイを何度か目にする中で、その違いがわかりました。サクラの花吹雪をあびながら、ヤマザクラ、オオシマザクラ、ソメイヨシノの違いをルーペで確認し、教えていただきましたが難しいです。イヌシデ、クマシデ、アカシデの3種類の芽吹きもカメラにおさめることができ、おびただしい数の雄花序に、数も少なく地味な存在の雌花序は、自己主張をする必要が無いのだと納得しました。細い褐色の鱗片に被われたアスカイノデの新葉の展開や、コスミレの咲く開けた林縁に白い絹毛に包まれた綿帽子のようなゼンマイの芽立ちなど、たくさんの植物に出会えて、楽しい観察会でした。(増田可余子)



オオシマザクラとヤマザクラの違いを聞く

▶境川遊水地で化石採集

2008年4月12日(土)／横浜市泉区下飯田「境川遊水地」／26名(大人21名 子供5名)／
講師名：田口公則学芸員
協力者：本田氏(境川遊水地情報センター)

4月12日、貝の化石を掘りに孫の勇佑と境川遊水地に行きました。今まで化石採集に行ったことはあるけど、こんなにたくさんの化石がある所に来たのは初めてでした。

家に帰ってきれいに洗って数えたら二枚貝が9種類で40個、巻貝も9種類で65個ありました。

何かの生物に食べられて穴のあいたサクラガイがありました。いちばん小さい巻貝は長さ4mmのムシロガイでした。ジュウタンのようにいろいろな種類の貝が埋まっている所に来られてうれしかったです。

次は今回採集できなかったタイワンシラトリ、イタヤガイ、ヤシロガイ、トカシオリイレを見つけないと思います。貝以外にもカニのはさみやサメの歯、それと未だ発見されていない化石も見つけてみたいと思いました。

(沼田 尚・勇佑(小5))



お爺ちゃん、こんなにいい形の化石が採れたよ

<謝辞>

講座実施に当たり「県藤沢土木事務所」、および「境川遊水地情報センター」本多氏の多大なるご協力に感謝申し上げます。



▶眠っている『とびら』を製本しませんか？

2008年4月22日(火)／博物館実習実験室／5名／
講師名：黒沢知子(友の会)

初めての企画です。製本の技術を皆様に伝えたくて、今回の製本講座を開きました。

博物館で製本？・・・と考えるとやはり「自然科学のとびら」と思い参加者を募りましたところ、5名参加していただきました。

当日は、ハプニングあり、感動ありの講座になりました。でも、皆さん素晴らしい本の出来上がり！皆さんのおかげで楽しく講座を開く事ができました。

スタッフは「少人数で皆さんに目が届いて良かった」との感想。参加者は「他の資料も製本したいナ」との声。

さて、今秋「製本講座パート2」を企画しています。次回は、お手持のA4サイズの資料を基準に考えています。皆様 資料の整理に製本講座に参加してみても如何でしょうか？ (冨田道恵)



「自然科学のとびら」をハードカバーで製本しました



作業手順を真剣に聞く講座参加者

博物館周辺の身近な自然シリーズ(その19)

目には見えない自然の力がよりどころ —向きと傾きを測るための空間認知—

学芸員 田口公則

前庭の“地層”を測る

生命の星・地球博物館の前庭に面白い“地層”があります。歩道橋を渡ると最初に目にとまる地層のオブジェのことです。大理石の板を重ねてつくられたこの地層は「大地」と題された上哲男さんによる作品です。今回は、このオブジェから身近な自然の力を考えてみたいと思います。

地層調査の基本的な仕事のひとつに、地層の向きと傾き（走行・傾斜）を調べる作業があります。地層の走向と傾斜から、地層の面的な広がりを推定するためです。今、足下で見ている地層は、尾根をこえた隣の沢ではこのあたりに露出しているはずだ、と地図上の作図によって予測します。地層の向きと傾きのデータが数度違うだけで、予測に差が生じ目的の地層を把握することに苦労することになります。ですから、できるだけ正確に地層の向きと傾きを測ることが重要になってきます。

その地層の向きと傾きを測る道具が、クリノメーターです。「クリノメーター？」かつては中学校の理科でも扱うことがあったようですが、一般には馴染



博物館前庭の地層

みのうすい道具でしょう。使い方にも少々慣れが必要です。しかし、その仕組みはいたって簡単。方位磁石（コンパス）、水準器（レベル）、振子（下げ振り）の3つパーツからできています。方位磁石で向きを測り、振子で傾きを測ります。このときよりどころになっているのが、地球の磁力と重力です。地球磁場のおかげで方位磁石から北を知り、重力のおかげで振子から鉛直方向（真下の方向）を知ることができます。北方向と鉛直方向を基準とすることで、物の向きを共通の情報として表現できるのです。つまり、地層でいえば、NからEに向かって20°の方角(N 20° E)で、北側に30°傾斜した面(N 30°)と向きと傾きを表現することで1つの面を示すことができます。知らないところで、目には見えない自然の力(磁力と重力)にお世話になっているのですね。



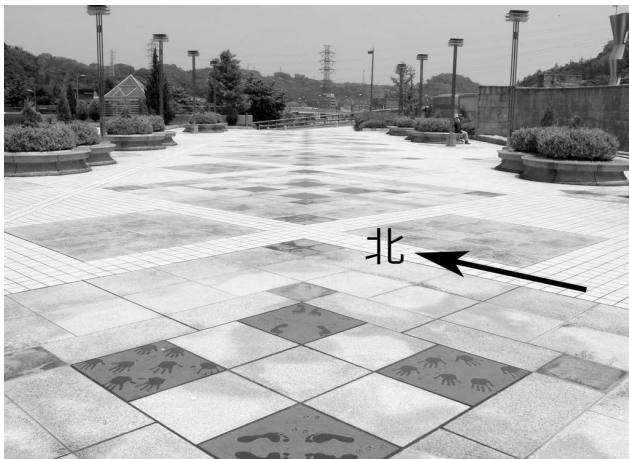
クリノメーター

さて、原理が簡単なクリノメーター、意外に使い方は難しく初心者には嫌われています（多くの人が、使い始めには東と西を逆に記録してしまったりといったミスをしてしまいます。）ならば、前庭の“地層”がちょうどよい練習場所になるではないか、と期待して、とある講座でクリノメーターの使い方の練習をしたことがあります。予備調査無しだったので、ぶっつけ本番。参加者のみなさんに、手づくりクリノメーターを地層にあてて測定してもらおうと、ずいぶんとデータにバラツキが出来てました。いくら手づくりのクリノメーターだといっても誤差が大きすぎます。どうしてだろうと、私も磁石をあててみると、“地層”の場所によって磁石の指す向きが違います。どうやら“地層”の中には金属が使われているらしく、その影響を受けて磁石がふらついてしまっていたのです。一方、振子は金属の構造

物に影影響されませんので、みなさん同じ値となりました。

方位磁石の向きは正確なのだろうか？

仕事柄、私は方位磁石を複数持っています。あるとき、方位磁石の向きをそれぞれ確かめてみました。すると、昔から使っていたクリノメーターの1つが西に $2\sim 3^\circ$ ずれていました。一体、どの方位磁石が正確なのかわからない状態となっていました。こんなとき、みなさんならどのようにして方位磁石の向きの精度を確かめますか？ 私はいくつかの方法を思いつきました。一つは、正確な方向を示す方位磁石と比べること（これなら自分の磁石が正確かどうかすぐにわかります）。そしてもう一つが、実際の北の方向と比べることです。北の方向といっても、じつは真北と磁北という2種類の北の方向が存在します。真北は、地図上の北、子午線、北極点への方向です。そして方位磁石の針の指す北が磁北であり、真北と磁北は向きが少しずれています。このずれを磁気偏角といい日本では、 $4^\circ\sim 9^\circ$ の差となっています。方位磁石の向きの精度を確かめるためには、真北の方向を知り、磁気偏角を差し引いた方角と比べてやればよいことになります。

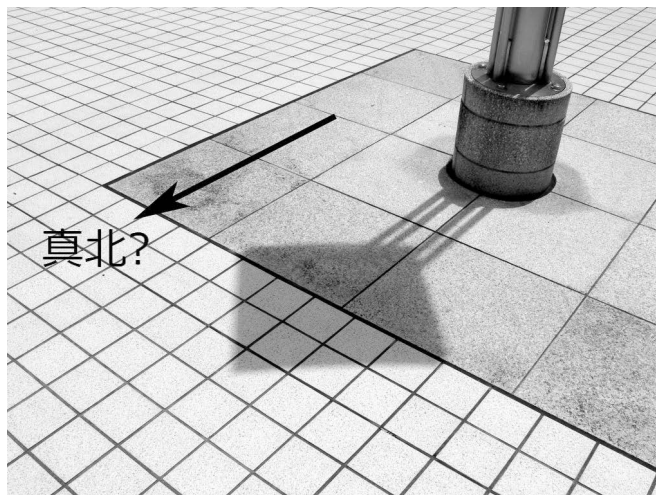


博物館の前庭の向き

各地の磁気偏角については、国土地理院の地形図を見たり、国土地理院の地磁気測量ホームページで計算して確認することが出来ます。入生田での磁気偏角は、近似計算で $6^\circ 51'$ 、偏角一覧図で $7^\circ 30'$ という値になりました（おおよそ 7° と考えてよさそうです）。つぎに真北の方向を調べる手だてです。夜なら北極星を手がかりにすることができます。日

中は、太陽が南中したときの影の方向で真北がわかります。見通しの良いところで方角のわかっている目標物があれば、そこから真北を求めることもできそうです。そこで、私は南中時刻の影の向きを確かめてみることにしました。でも太陽の南中時刻は何時なのでしょう？ 明石なら正午なのでしょう？

早速、インターネットで調べてみました。ありがたいことに南中時刻を計算するサイトもあります。入生田の緯度、経度、標高からその日の南中時刻を調べてみると、午前11:38とあります。ここまでいろいろ調べていて、気になることが出てきました。博物館前庭のタイルの一边の向き（じつは“地層”の向き）が真北の方向と一致しているのではない、という疑問です。南中時刻に、前庭で水糸に錘をぶら下げてその影を見ることにしました。しかし、その日は風が強く錘がゆれてしまい方向が定まりませんでした。でも街灯の影を見ると、タイルと同じ向きを示しています。街灯が鉛直で、床が水平ならば、この向きが真北となります（実際、床は少々傾いている??）。今回、正確な真北はわかりませんでした。前庭の“地層”やタイルはほぼ南北方向であることがわかりました。すると、私は毎日、北から 45° 東に向いて机に座り仕事をしていることになります。基準を見つけ、空間的位置づけを定める身近な例となりました。肝心のクリノメーターの検査については、他にも一筋縄ではいかないことがあり、未だに解決しておりません。やはり正確な磁石と比べることで誤差を知る方法が手取り早いようです。



太陽の南中時刻の影

私の応援メッセージ!

博物館は社会の“お荷物”ではない!

文化環境研究所所長
高橋 信裕



このところの財政難から、公立の博物館が統廃合のターゲットにされている。千葉県でも10数館あった県立博物館が、統廃合や地元自治体への移管という形で、それまでの県立博物館ネットワークの「解体」が進められ、埼玉県でも同じような改革がなされている。そこに来たる「大阪府問題」である。府民の絶対的支持のもとに当選した新知事・橋下徹氏の財政改革の大鉈が「教育機関」である「博物館」にも容赦なく振り下ろされているのである。

教育機関としての「博物館」は、法的に言えば「社会教育法」や「博物館法」のもとで都道府県の教育委員会が設置者の申請を受けて認可、登録したものを指すのであるが、この「登録博物館」という一種の社会的なブランドになりえるはずのものが、行政の中で自己崩壊しているのが現状である。

わが国では、コミュニティのプロスペリティ（繁栄）は、実際には「民」よりも「行政」が担ってきたし、「行政」もその姿勢を保ってきた。財源にゆとりのあった時代では、なおさらのこと、この図式で社会は維持されてきていた。

ところが、「政府」や「行政」に金がなくなり、それを契機に地方自治体が、「地方分権」や「規制緩和」等の政策のもとに、「中央政府」の庇護から放り出され、財源的な支柱を失ってしまった。日本は、「中央集権」的な財政運営で、これまで成長してきたものだから、事態は深刻である。

さらに、問題がここにある。「教育委員会」は政治

から独立、中立した合議制の行政委員会として、戦後の民主化を教育行政という立場から推進してきた母体である。この機関の存在は、市民が市民として成長するためのインキュベーターの役割を果たすことをミッションとしてきており、その意味からも「教育」の本当の真価は、「学校教育後の生涯学習環境づくり」にあるといい。社会教育機関の中核にある「博物館」の生殺与奪の権を首長が握ることの矛盾と不合理性について、市民はもっとセンシティブになっていいのではないかな。

「社会」の責任は、「行政」ばかりにあるのではない。むしろ、それを構成する市民一人ひとりにある。われわれ市民は、教育委員会という制度そのものについても、もっと関心を払う必要があり、戦後の民主化の経緯や背景を健全な市民の立場から検証する必要があるのではないかな。「博物館」の解体への動きと、首長の純朴ではあるが、強権的な介入は、「教育委員会」の存在意義を脅かすものであるとともに、市民社会の存亡にもかかわる重大事なのである。そうした意味において「博物館」は、行政の、いや社会のお荷物であってはならない。その社会の状況や文化、民度の成熟度を知るには、そこに営まれている「博物館」を見れば、おのずから知ることができる、といわれるほど「博物館」は、その地域や国々の置かれている実情を正直に物語ってくれる。

近年のアジア諸国における博物館振興への取り組みと戦略的展開は、アジアのなかで最先進国であると自負してきたわが国にとって、まるで遠い国の出来事のように映じている。

2004年のI COM（世界博物館会議）の世界大会は韓国・ソウルで開催され、2010年の同世界大会は、中国・上海で開かれる予定である。アジアの博物館は、今力が溢れている。日本の博物館に目を転じると、博物館を博物館として維持、発展させていく力を喪失した「地方博物館」（登録博物館）があまりにも多く、地方は実質的な「文化的鎖国状態」へと向かっているかのようにさえ思われる。我々市民一人ひとりが、もっともっと豊かになるためには、身近な博物館を活かし、発展させていくことこそ捷径であり、そこには市民の存在と参加が大きな鍵を握るのだ、ということに社会全体が気付くためにも、友の会の役割と活動はこれまで以上に重要になってくる。健全な市民社会を醸成し発展させていく良識の源泉として「友の会」が担う役割の大きさに期待するものである。

わたしの選ぶ

“この一冊”



学芸員 大島光春

学研まんが ひみつシリーズ

地球や生物のなぞをとく 化石のひみつ

昭和50(1975)年12月初版発行

監 修 小島 郁生

協 力 浜田 隆士

構 成 山梨 賢一

漫 画 川崎てつお



この本を買ってもらったのは小学4年生くらいの時ではないかと思います。駅前の小さな本屋で、自分で選んだのを覚えています。漫画さえほとんど読まなかった少年は、この本(だけ)はほとんど全て暗記するまで、繰り返し読みました。

この本の構成は①化石発くつものがたり ②化石がといた地球や生物のなぞ ③化石はどのようにしてできたか ④かわった化石のいろいろ ⑤生きている化石のひみつ □化石なんでも質問箱 となっています。これは子どもを化石発掘のロマンで引き

つけ、そのあとの地質学や古生物学の意味・意義を読ませる作戦です。素直な少年は、この作戦にまんまとはまってしまったわけです。たわいもない。

①化石発くつものがたりでは、主人公の小学生ジローに、友達のエミの兄(化石を勉強している大学生)が、発掘に向かう電車の中で恐竜発掘の話をして聞かせます(恐竜でなく首長竜ですが、そのことは欄外の「まめちしき」に書いてあります)。

これは昭和43年に福島県いわき市の入間沢で、当時高校生の鈴木 直(ただし)さんがフタバスズキリュウを発見した話のことです。ちなみにこの化石はつい最近、新属新種として記載されました(Sato et al., 2006)。この話の中で、化石を発見した鈴木さんは科博の小島先生に連絡をし、小島先生は同僚の長谷川先生を連れて、現地にやってきます。それから3年かかって、首長竜を含んだノジュールは地元の建設会社菜花組によって切り出され、科博へ運ばれ、研究が行われます、というところで話は終わっています。

この本を買ってもらった少年は、およそ10年後、大学生となって地質学を専攻していました。科博の富田先生に古生物学を教わり、アルバイトと勉強に科



博へ通っていました。卒業論文では双葉層群の堆積相解析をテーマにして、当時科博の地学部長だった小島先生にも指導をしていただきました。収蔵庫で化石の整理をしながら、横浜国立大学に移られていた長谷川先生のお手伝いもできました。鈴木さんが館長をしておられた、いわき市石炭・化石館では学芸員の菜花さん(菜花組との関係は不明)に現地の情報を教えていただきました。

そして今、かつての少年は博物館(初代館長は浜田先生)で古生物学を研究しながら、博物館を訪れる人に驚きやおもしろさを伝える仕事をしています。漫画で知ったあこがれの大先生達は、どなたも気さくで親切な方々でした。及ばずながら私もそうした先生方を見習い、博物館を訪れる多くの方々に化石の魅力を伝えていきたいと思っています。

博物館 NOW

はじめて見ました生命の星・地球博物館

企画情報部長 富田憲一

友の会の皆様には、誠に申し訳ありません。小田原に住んでいながら、生命の星・地球博物館に入ったのは、当博物館に4月に異動してきて初めてのことです。住まいが当博物館から5キロ程のところですので、散策路としては、博物館周辺を度々訪れております。外からの景観は、目に焼きついているのですが、展示は「はじめて見ました」。



地球という大きなテーマを掲げている当館の展示は、神秘的な世界をダイナミックに表現しており、ビギナーの私にとっては見ごたえのあるものでした。

私の県での仕事は、部局ですと商工部、労働部、衛生部、環境部、都市部、教育委員会と様々な分野の仕事を経験してきましたが、当然のことながら、博物館というアカデミックな環境の中での仕事は、今回が初めてのことです。

実は、この原稿を書いているのは、転勤後17日目で、会長さんが依頼に来られた時、「部長は転勤してきたばかりなので抱負でも書いて」ということでしたので、現時点での抱負を考えて見ました。

教育委員会の教育財務課にも在籍し、県の財政状況の厳しさや、教育局内部における予算編成の困難さなど十分承知しておりますが、やはり、博物館も進化させなければならないということです。多くの皆様に常に感動を与えられる展示へと、その使命を果たしていかなければならないと考えております。

それから、小田原に住んでいながら、生命の星・地球博物館に足を運んでいないという方が、私の他にもいるかも知れません

友の会の皆様にご協力いただきながら、生命の星・地球博物館を愛してくれる人の輪を少しでも大きくできればと願っております。

＜情報クリップ＞

会員数 507名 4月25日現在
(正会員504名、賛助会員3名)



平成20年4月 博物館人事異動

＜管理課＞

転入：小野 由紀子 転出：奥野 宏
転入：込山 宣子 転出：橋本 隆

＜企画情報部＞

転入：富田 憲一 退職：二川 幸夫
退職：山口 佳秀（学習指導員へ）
異動：勝山 輝男（前 学芸部→企画普及課長）
異動：樽 創（前 学芸部）

＜学芸部＞

異動：平田 大二（前 企画普及課長→学芸部長）
異動：佐藤 武宏（前 企画普及課）
退職：高桑 正敏（学芸員として再任用）

〔業務専門員〕

新任：宮崎 信恵 退職：阿部 侃壽

〔学習指導員〕

新任：山口 佳秀 退職：松本 成美
新任：佐藤 公司 退職：松岡 輝宏

行事案内

◆第81回サロン・ド・小田原

演題 「フィールドの達人の身だしなみ」

博物館の学芸員有志による「フィールドの達人の身だしなみ」です。自然史分野のフィールドワーク。学芸員は、どのようなファッション（スタイル）で調査を進めているのでしょうか？

7名の学芸員がそれぞれのスタイルを紹介します。調査道具などを材料にフィールドワークの楽しみについてみなさんと共に語ってみたいと思います。

日時 6月28日（土）17:30～20:00

講演会 17:30～18:30

茶話会 18:40～20:00

場所 博物館1階西側講義室・3階レストラン

参加費 講演のみの参加は無料。茶話会参加費は大人1000円

申込み 講演会はどなたでも参加できます。茶話会は事前申込み（Fax:0465-23-8846 またはハガキ）が必要です。

連絡先 友の会事務局

◆夏休み昆虫探検隊

長野県茅野市周辺の自然の中で昆虫の生息環境・採集方法を学びます。講師は苅部・高桑学芸員です。

日 時 7月25日(金)・26日(土)
場 所 長野県茅野市周辺
集 合 小田急線開成駅 8:00(解散は18:00)
対 象 子ども(小4)から大人/15名(抽選)
参加費 20,000円程度/人
締切り 7月5日(土) 必着
連絡先 渡邊
特 記 参加費にはバス代、宿泊費が含まれます。

◆三浦半島「荒崎海岸」でパンニング

三浦半島「荒崎海岸」に散在する幻の砂金、オリビン、輝石、角閃石等の造岩鉱物をパンニングする。

講 師 蛸子 貞二(友の会) 山下 浩之学芸員
日 時 7月26日(土) 10:00～15:00
場 所 三浦半島「荒崎海岸」
(三崎口駅～ソレイユの丘までバス乗車)
集合場所 京浜急行線「三崎口駅」改札出口
集合時間 9:30 (当日のバス時刻により集合時間の変更もあり得る)
対 象 子どもから大人まで/30名(抽選)
参加費 150円/人
締切り 7月15日(火) 必着 *チラシ無し
連絡先 中村(良) 3 3 3

◆乗鞍高原で高山性トンボなどの昆虫を見よう

長野県乗鞍高原で高山性のトンボや蝶などの昆虫観察会です。講師は苅部学芸員

日 時 8月2日(土)・3日(日)
場 所 長野県乗鞍高原
集 合 小田急線開成駅 8:00(解散は19:00)
対 象 子ども(小4)から大人/10名(抽選)
参加費 21,000円程度/人
締切り 7月5日(土) 必着
連絡先 渡邊
特 記 参加費には交通費、宿泊費が含まれます。

◆子ども自然科学ひろば『バックヤード探検隊』

ふだんは見学できない博物館の収蔵庫や、博物館で働く学芸員の仕事内容や職場を知りましょう。

日 時 8月9日(土)・10日(日)
両日とも1回目 10:30～11:30

2回目 14:00～15:00

場 所 博物館内
対 象 小学生以上
(小学3年生以下は保護者の方同伴です)
定 員 各回10名
(同伴の保護者の方も含んだ人数です)
参加費 100円/人
締切り 7月26日(土) 必着
注 意 見学場所によってはにおいがきついところがあります。

◆子ども自然科学ひろば『いろいろ体験』

いろいろな体験講座を行います。当日ご希望の講座にご参加ください。プランクトン観察など、詳しくはチラシをご覧ください。

日 時 8月16日(土)
10:00～12:00 13:00～15:00
1時間～2時間/1講座
場 所 博物館実習実験室(受付も同じ)
対 象 子どもとその保護者
定 員 各回5名/1講座
参加費 200円～300円程度/1講座
連絡先 矢野
注 意 当日受付で事前申し込み無しです。

◆子ども自然科学ひろば

『水餓鬼を育てる! Part 5』

博物館横の早川で水遊びしながら水辺の生き物や岩石を観察します。

日 時 8月23日(土) 9:30～15:00
場 所 早川河原・博物館講義室東
対 象 子どもから大人まで・オープン/30名
(先着順)
参加費 500円/人
締切り 8月8日必着
連絡先 佐藤
特 記 川の状況でプログラムが変わります。
(返信ハガキでお知らせします。)

◆子ども自然科学ひろば『道ばたの雑草観察会』

博物館の近くで野草を観察して数種を採集。その後、室内で植物の名前を調べたり、花のつくりや葉を観察します。最後に葉脈スタンプのしおりを作ります。

日 時 8月24日(日)

1回目 10:00(出発)～12:00

2回目 13:00(出発)～15:00

(受付は各回20分前より)

場 所 博物館実習実験室(受付も同じ)と博物館
周辺

対 象 各回 小学校3年生以上の児童・先着15人
(保護者も参加可)

参加費 100円/人

◆魚の細密画を描こう

今回は、「コイ」に挑戦します。魚を観察しながら
正確な描写を試みます。完成した作品を部屋に飾っ
てみませんか。

講 師 瀬能 宏学芸員

日 時 8月30日(土)・31日(日)の2日間講座
10:00～16:00

場 所 博物館実習実験室

対 象 大人/10名

参加費 1,500円/人

持ち物 鉛筆HB3本、カッター、洋食用テーブル
ナイフ、昼食

締切り 7月31日(木)必着

連絡先 星野 6

特 記 会員優先ですが、定員に満たない場合は
オープンで受け付けます。

参加費には材料代が含まれます。

◆三浦半島の付加体観察会

三浦半島に衝突する日本列島で最新の付加体を観
察します。

講 師 蛸子 貞二(友の会) 石浜 佐栄子学芸員

日 時 9月13日(土) 10:00～15:00

場 所 三浦海岸「毘沙門天下」

(三浦海岸駅～毘沙門天入口までバス乗車)

集合場所 京浜急行線「三浦海岸駅」改札出口

集合時間 9:20(当日のバス時刻により集合時間
の変更もあり得る)

対 象 子どもから大人まで/40名(抽選)

参加費 150円/人

締切り 9月2日(火)必着 *チラシ無し

連絡先 中村(良)

◆植物観察会「秋草を楽しむ」

ワレモコウ、ソナレマツムシソウなど十国峠で秋

の草原の花を観察します。

日 時 10月8日(水) 10:00～15:00(雨天中止)

場 所 熱海市十国峠

集 合 JR熱海駅前 9:00

(近くまでタクシーで移動)

講 師 勝山輝男学芸員

対 象 大人/30名(抽選)

参加費 300円+往復タクシー代/人

締切り 9月20日(土) 消印有効

連絡先 浜岡

■参加申し込み

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局
までお送りください。ファックスや電子メールでは
受け付けませんので、ご注意ください。

行事名/開催日/参加者全員の氏名・年令(学年)
/会員番号/代表者の住所・電話番号/指定事項ご
不明な点は、友の会事務局へお問い合わせください。

■受 付

返信はがきが開催日の1週間前ごろにお手元に届
きます。当日ご持参ください。

■あて先

神奈川県立生命の星・地球博物館友の会事務局

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

注意! ★参加費は1名分の金額で、内訳は資料代、
傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載
があります。バスなど予約が必要な場合、参加者
個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後の
キャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参
加費を負担していただく場合があります。★オープ
ンの行事は会員外の方も参加できます。★小学生以
下の参加は保護者同伴が原則です。★チラシの発行
されない行事もありますので、直接<連絡先>へお
問い合わせください。★持ち物など詳細は返信はが
きに記載されます。

友の会通信61号は、2008年9月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会

Vol.12, No.1, 通巻60号 2008.6.15 発行

編集 友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

TEL:0465-21-1515 FAX:0465-23-8846